

平成29年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

②インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性をもつ俵型大納言小豆品種の育成(29~31年度)

代表者:京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 主任研究員 尾崎耕二

目的

高級和菓子の原料である京都府産の大納言小豆において、インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を有する品種を開発し、収量の安定化と担い手不足への対応を図る。

成果

①大粒で機械収穫適性が高い系統の選抜

- ・京都大納言より倒伏程度が小さく、機械収穫に適しており、百粒重が大きく俵型に近い4系統を選抜した。

②DNAマーカー等を活用したインゲンマメモザイクウイルス抵抗性調査

- ・インゲンマメモザイクウイルス感染株率は、慣行品種の京都大納言において、ELISA分析で37%であるが、選抜した4系統は0%であった。

俵型系統と京都大納言の子実形状の比較



俵型系統



京都大納言